

市民活動と 巻き込むチカラ



熊本市市民活動支援センター・あいぽーと



ボランティア

ボランティア活動を始めたい、ボランティアを募集したい等の様々な相談を受け付けています。また個人、団体でのボランティア登録を受け付けており、登録された方には定期的にボランティアに関する情報をお届けしております。ボランティア活動に興味のある方はぜひご来館ください。



NPO法人

NPO法人の設立・運営に関する相談や、各種提出書類の相談窓口を開設しています。特に、法人の設立及び定款変更の認証申請書類の作成に関しては、留意していただく事項が多いため、事前に申請書類の作成に関する相談や質問、申請に必要な書類の確認をするなどの事前相談を実施しております。また法人の活動状況把握のための訪問や、要望に応じたの出前相談会も行っております。



くまもと・わくわく基金／その他助成金

「くまもと・わくわく基金」や「その他助成金」に関する相談を受け付けています。「くまもと・わくわく基金」から助成を受けるには、あらかじめ基金団体登録をしていただく必要があります。申請書や報告書など書類の書き方の説明や、団体の運営相談などを受け付けています。また、「その他助成金」に関しては、ホームページに情報を掲載し、窓口ではその他助成金に関する説明・紹介等を行っております。



Let's go あいぽーと！

あいぽーとでのイベント情報をFM791のラジオで毎週月曜日朝8時40分より配信しています。「Let's go あいぽーと」を聴いてあいぽーと情報をゲットして遊びに来てください。

放送日／毎週月曜日 8:40～

※生放送のため、開始時間が前後する場合がございます

あいりぽーと

毎月、あいぽーとスタッフが、熊本市内で活動されている団体取材し、FM791のラジオ番組「校区のチカラ」の中で取材報告をしています。

放送日／毎月第2金曜日 14:00～

詳細については、お気軽に下記までお問い合わせください。

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

TEL:096-366-0168 FAX:096-366-8830
Mail:aiport_kumamoto_city@joy.ocn.ne.jp



ホームページは
コチラから



いつも
笑顔で
健康長寿！

吉村 盛夫(83)

略 歴

KKA高齢者健康友の会 代表。出水南校区町内自治会、校区健康づくり推進協議会、社会福祉協議会などでボランティア活動を行う。NPO法人熊本わくわく体操ボランティア協会にも参加。20年以上に渡り「水前寺成趣園水飲み会」(出水神社)の活動に参加し、地域の皆さんと共に健康づくりに努めている。

クローズアップ人

「人との繋がり」を大切にし、80歳を超えた今でも、健康体操(レクリエーションダンス)などたくさんの人と共にパワフルに活動されている吉村さん。その魅力と信条に迫ります。

——「KKA高齢者健康友の会」に関わったきっかけは？

58歳の時に定年退職し、その後のことを考えた時に、「まず健康が大切だ！」と想ったんです。そのために、「毎日定期的な活動をする」を目標に、水前寺成趣園(出水神社)で毎朝行われている「水飲み会」に参加するようになりました。そこで「ラジオ体操の指導をしてください」とお願いされ、「人様に指導するというのは何か資格を持っておかないか」と思い、県のレクリエーション協会のカレッジに参加。その際、協会の副会長だった方から「一度KKAに参加してみませんか？」と誘われたのがきっかけです。活動を手伝っているうちに副会長を勧められ、KKAに入ってから20年が経った今では会長になりました。

——他にもたくさんさんの団体で活動されていますね！

80歳までは校区町内の自治活動をしていま

した。KKA高齢者健康友の会では、あいぽーとや公民館などで皆さんと一緒に楽しく健康体操をしています。他にもNPO法人熊本わくわく体操ボランティア協会に参加し、健康体操や火の国YOSAKOI(現九州がっ祭)に出場しました。全国レクリエーション大会では、去年は北海道、一昨年は岐阜に遠征し、今年は高知県での大会に参加予定です。

——吉村さんの周りにはたくさんの方が集まっていますが、その秘訣は何でしょうか？

笑顔で元気に、大きな声での挨拶です。年齢を問わずなるべく話しかける。特に高齢者から若い人に挨拶をすることが大事だと思っています。「参加してみませんか？」というように笑顔で誰にでも声をかけるようにしています。

また、体操の時には参加する皆さんのことも、講師の先生のこと感謝して褒めるようにしています。

相手の立場になって考えることをいつも心がけています。「皆が気持ちよく活動できるように考えて行動する」。それが長く、たくさんの人と共に続けていく秘訣かもしれません。

もくじ contents

特集 市民活動と巻き込むチカラ

- 市民活動と巻き込むチカラ 02
- あいぽーと的「巻き込むチカラ」論 03
- 巻き込む人と巻き込まれた人 04
- クローズアップ 人 01
- あいぽーとラチオ部 06
- あいづ ボランティアレポート 07
- くまもと・わくわく基金レポート
わくわく基金「その後の話」 08
- ご協力のお礼と寄附者のご紹介 10
- 制度のしくみと利用方法 11
- アクティブNPO 12
- あいぽーとガイド 14
- 数字で見る“あいぽーと” 16
- あいづ川柳道場 17

●表紙について

「巻き込み、巻き込まれる人々」

特集の取材に応じて頂いた「わいわいHVC(北部高校生ボランティアサークル)」の活動風景より。中学生や高校生から地域の大人たちまで、多くの人々を巻き込みながら活動の輪が広がっています。



市民活動と

巻き込むチカラ

今回のあいづ特集では、市民活動を行う上で重要と言われる「巻き込むチカラ」について、多角的な視点から考えます。多くの人々を巻き込み、活動をより発展させるためには、どのような要素が必要なのでしょう？

『市民社会』を創るために

地域のまちづくりにおいて、市民によるボランティア活動や、NPOなどの組織が行う市民活動は、きわめて大きな存在と意味を持っています。行政が主導する街づくりだけでなく、こうしたボランティア活動・市民活動が活発な社会のことを「市民社会」と呼びます。

「市民社会」とは、「一人ひとりの市民が主役となり、個々に独立しつつ互いの違いを認め合い、助け合い、プロセスを大切にしながら社会づくりに参加し創造していく社会」です。

「市民社会」を創造し活性させるためには、次の4点が重要と考えられます。

- ①市民が主人公であること(市民参加・参画)
- ②市民が作る組織が元気であること(NPO活性化)
- ③市民あるいは市民が作る組織同士が協働できること(市民協働)
- ④市民が作る組織と企業・政府(行政)が協働できること(セクター間の協働)

一人ひとりの参加が重要

このように、「市民社会」づくりの第一歩は、市民の参加から始まります。ここで言う「参加」とは受け身的、消費的な参加ではなく、一人ひとりの主体的に関わる「参加」です。地域・社会で起きている問題に対して無関心・他人事ではなく自分に関わる問題として、すなわち当事者として捉え行動することが重要です。

そのために必要なことは、より多くの人を巻き込み、「当事者」に変えていくこと。活動の熱意に巻き込まれ、関わった人々は、市民活動に新たな視点や気づき、そして未来に向けて進むパワーを与えてくれます。

あいづーと的

「巻き込むチカラ」論

個人を巻き込むことで……！



ボランティア担当
白石さん

あいづーとで実施したアンケート調査によると、「ボランティアをしたい」とある人は「関心がある」という人は、全体の約7割を占めています。ですが実際にボランティア活動を行っている人は1割にも満たないのが現状です。この「ボランティアをしたいけど……」と考えている個人を、実際の活動の場まで引き出していくために必要なのが「巻き込むチカラ」なのではないかと感じています。

個人のボランティアの方を巻き込むには、求める側の発信の方法も重要です。「ボランティアに参加してくれる人々」という募集ではなく「地域のこんなことに困っているんだ！」「こういうことに協力してもらいたい」など、具体的に発信していくことが個人ボランティアを巻き込む第1歩になると思います。

個人のボランティアを巻き込むことによるメリットも多彩です。異なる視点や気づきがあり、幅広く地域につなげることができると思えます。また、関わってくれる個々人のチカラを最大限に活かすためにはそれぞれのボランティア参加者が持つ「やりたいこと」「できること」を把握し、その思いと能力を生かす準備も必要だと思えます。

NPO(団体)にとっての「巻き込むチカラ」の重要性

NPOとして地域課題の解決に近づくための活動には、市民の共感と協力が不可欠です。「その団体が何を目的にどのように動きたいのか」、「そのために何を求めているのか」を、市民にとって「見える化」し、魅力的に語るための提案力を持つことが大事ではないかと思えます。自発性、自主性を持った数多の市民自身から理解や興味を示してもらい、一人ひとりが自分から出ることを考え判断し、社会にとって自分が必要とされていると受け止める。常に受け入れる間口を広げ、本気で語り合うとともに信頼関係を築く。団体や組織が市民を巻き込んで行動し、発展するためのチャンスは、このような多くのプロセスを踏むことで訪れるものではないかと思えます。

その力ギとなるのは、「私たちには市民の協力が必要だ」と声を上げる。言い換えるならば「弱さを見せること」かもしれません。同時にその活動により自らの「喜び」と周りの誰かの「喜び」も味わえるような真剣な姿勢、そして自分たちの活動に対する確信と誇りも必要ではないでしょうか。



NPO担当
土井さん

熊本市における市民活動のプラットフォームである「あいづーと」。同施設の3名のスタッフに、それぞれの立場、関わる分野から見た「巻き込むチカラ」について尋ねました。

助成を通して見た「巻き込むチカラ」



くまもと・わくわく基金
助成担当 竹田さん

あいづーと窓口にて、くまもと・わくわく基金の助成に関する業務を行っています。いつも思うのは、日頃は名前も知らない団体でも、実際に会って話をしてみるとその人柄や活動に惹かれ、「何とか応援したい」と思ってしまうこと。まさに、私自身が巻き込まれてしまっているのです。

ということは、団体が自分たちの活動について報告したり、説明したりする機会がもっともっと増えれば、自ずと巻き込む力も強くなるに違いありません！ と思えます。助成を受けることが目的で作る書類やプレゼンであっても、それを見たり聞いたりする他の人々に想いを伝えるチャンス！ その想いに反応し、周りの人を巻き込んでいく可能性は十分あるのです。

助成を受けるための書類やプレゼンには皆さん苦労されていますが、助成申請も活動や想いを伝える機会と考え、「巻き込むチカラ」のひとつとしてトライしていただきたいものです。

巻き込む人と 巻き込まれた人

市民活動における「巻き込むチカラ」の重要性、感じて頂けたでしょうか？ このページでは、地域の活動を通して、誰かの想いが他者を巻き込み、動かし、大きな活動へと発展していった軌跡をご紹介します。熊本市北区の北部中学校校区で活動を続ける「わいわいHVC（北部高校生ボランティアサークル）」代表の吉永さんにインタビューしました。



巻き込む人
わいわいHVC 代表
吉永 京子さん

**活動を続けるため
若者のチカラが必要でした**

40年ほど前のことです。北部地域にも新しい団地などが出来始めて、近所同士の付き合いが薄くなりつつありました。私の母も一人暮らしで、地域の方に見守られて生活していることを思い、自分が住むこの地域でも、ひとり暮らしの方を少しでもサポートできたらと思ってボランティア活動を始めました。「地域の方を地域で支える」、北部校区をそんな地域にしたいと思い、「タンポポ会」というグループを結成しました。メンバーの皆さんと一緒に、地元の老人ホームなどを中心に、怒ふき、話し相手などのボランティア活動を行っていました。

活動を続けていくなかで、どうしてもメンバーの交替や引退の問題が生まれてきます。地域に根差した活動を続けるためには「継続可能な社会の創り手」として、若者のチカラが必要だと感じました。そこで、当時の北部中学校の校長先生に「中学校でボランティアサークルを作りたい」と相談したところ、嬉しいことに大いに賛成して頂けました。たくさんの中学生在に協力していただいて、活動の幅も大に広がりました。

**「ボランティアを続けたい！」
サークル卒業生たちの思いは続く**

その後も多くの中学生がボランティア活動に参加してくれました。ある時、サークルに所属していた卒業生から「高校生になってもボランティア活動を続けたいと、とても嬉しい言葉をもらいました。彼らが中心となって「わいわいHVC」を発足し、高校生を中心とした地

域のボランティア活動が始まったのです。いまでは社会人になって県外に就職した子どもたちも定期的にこの北部地域のためにボランティア活動をするために帰省してくれています。

時代の流れでしょうか、「個人情報保護法」の壁により、なかなか中学生たちにアプローチできなくなり、もう辞めようかと思っていた時期もありました。そんなとき、わいわいHVCに所属していた子が、「中学からボランティア活動が経験できる環境でとても恵まれている」「ボランティア活動を通して人とのコミュニケーションの取り方が自然と身についてた」「こんな経験を後輩にもさせてあげたい」。そう言ってくれました。辞められませんか（笑）。

**巻き込むことは
受け継ぐこと**

今でも北部中学校にご理解とご協力をいただき、卒業式の前にHVCメンバー募集の告知タイムを設けさせてもらっています。校長先生からは、「北部中学校の生徒たちのチカラで地域を支え合う日本一の校区にしたい」とまで言ってくれました。

最初は私ひとりの想いだった「地域へのボランティア」。タンポポ会の仲間へ届き、学校の先生方に届き、中学生の皆さんに届き…。時代を超えて、また若い世代に受け継がれていることを、とても嬉しく思います。

1400名を超えるOB・OG
私たち、「わいわいHVC」!!



巻き込まれた人
メンバーは勉強や部活動などで忙しい時間の合間を使いながら活動をしています。毎回活動で多くの人と出会い、いろいろなことを学べて楽しく感じることができています！
北部中学校 生徒及び卒業生
「わいわいHVC (Hokubu Volunteer Circle)」

私たち「わいわいHVC」は、北部中学校校区の卒業生（多くは高校生）を中心に集まったボランティアサークルです。「地域の若者が地域を支える」をモットーに、お年寄りの方々や障がいを持つ方、地域の子どもたちと様々な活動を通して、相手に元気を与えつつ、相手からも元気をもらいながら活動をしています。

北部中学校で様々なボランティア活動をしていた卒業生が「高校生になっても活動を続けよう」という気持ちのもと、1993年に発足しました。今までに1400人を超える高校生が参加し、OB・OGの中には、HVCでの活動がきっかけとなり、地元で社会福祉施設や障がい者施設に就職したり、学校の先生になったりしている人もいます。

**あなたにとってわいわいHVCとは？
わいわいHVCの4人の副代表の一人、
山隈光成さんにお話を伺いました!!**



巻き込まれた人
わいわいHVC 副代表
山隈 光成さん

HVCやメンバーのみんなに出会えたことは、自分にとって生の財産です。HVCにはいつでも自分の居場所があり、家族のように、家族以上になんでも話せる仲間です。他のメンバーにとってもこのような居場所があるからこそ、卒業しても、熊本の土地を離れても、また集まって活動ができるのだと思います。

私も卒業後県外に就職し、東京、大阪と数年間過ごしていましたが、数カ月に一度は仕事の合間を縫って帰省しHVCの活動を続けていました。交通費など金銭面での苦労もありましたが、なによりもHVCを通して地域の方とのふれあいが自分の励みになりました。積極的に地域と関わり合い、自分が支えられたように、今後はHVCの仲間を支えていきたいと思っています。

活動はここまで広がりました！



私ひとりのチカラはもちろん、同世代の仲間だけのチカラでは、こんなに多くの活動をこんなに長く続けることはできませんでした。巻き込まれてくれた笑、若い皆さんのおかげです！

○北部おしゃべり隊・窓拭き隊
地域の老人ホームで施設の窓ふきやお年寄りの方とのふれあいゲームなどを行っています（毎月第3土曜日）

○北部キッズ遊学塾
公民館を会場に、地域の子どもたちが体験する様々な活動のサポートを行っています（毎年5月～翌3月にかけて毎月開催）

- 季節の活動
- 各地域・施設の夏祭りの手伝い（くわのみ荘・川上校区・北部東校区）
- 川上校区・北部東校区でのハイキング
- ふれあいフェスタinほくぶ青少年大会
- 企画・司会など
- 北部ふれあいクリスマス会
- 企画・運営・司会など
- 地域交流：赤飯配り

北部校区にまつわる「巻き込むチカラ」のストーリー、いかがだったでしょうか？ 熊本市の各地でみなさんが行われている素晴らしい活動を助け、受け継ぐためのヒントになれば幸いです。想いのチカラを信じ、巻き込み、巻き込まれていきましょう！

あいずボランティアレポート

eyes volunteer report

今回このコーナーでは、「特定非営利活動法人おーさぁ」が運営し、介護から地域の縁がわ事業まで幅広い分野で活動している「健軍くらしささえ愛工房」でのボランティアをレポート。異なるジャンルのボランティアに参加する3組の方からお話を伺いました。

■どんなボランティアに参加していますか？



香山富士男さん

囲碁の相手のボランティア

平成24年から、週5回通っています。最初は囲碁の相手をする目的で通っていましたが、現在では自分の健康の為に通っています。「自分を待っている」と思うと自然に健康に気を使うようになり、ボランティアを通して自分も活かされています。



自らの健康の支えにもなっている囲碁ボランティア。94歳の今も、元気に週5回通っています

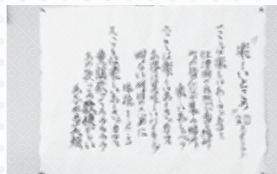


赤星百合子さん

熊本オペラ芸術協会正会員

おーさぁソングの作曲・作詞

地域に根付いた活動をされ、地域の方の交流の場になっている「おーさぁ」のことを歌で表せないかと思い、作詞作曲しました。おーさぁのクリスマス会などで童謡を披露しています。歌うことが好きで利用者、参加者の方が楽しそうに歌を歌っている姿をみて自分も楽しい気持ちをいただけます。



タイトルは「楽しいところ」。行事などの際に、多くの方が歌っています



おーさぁバンド

バンド演奏

おーさぁの事業のひとつである「若者サポートステーション」を通じて出演することがあります。主なステージは喫茶コーナーでのイベントなど。歌と楽器の演奏を披露して利用者の方に楽しんで頂いています。



クリスマスなど季節のイベントでも活躍しています

ボランティアを募集した団体

特定非営利活動法人 おーさぁ
健軍くらしささえ愛工房

●地域の縁がわ事業

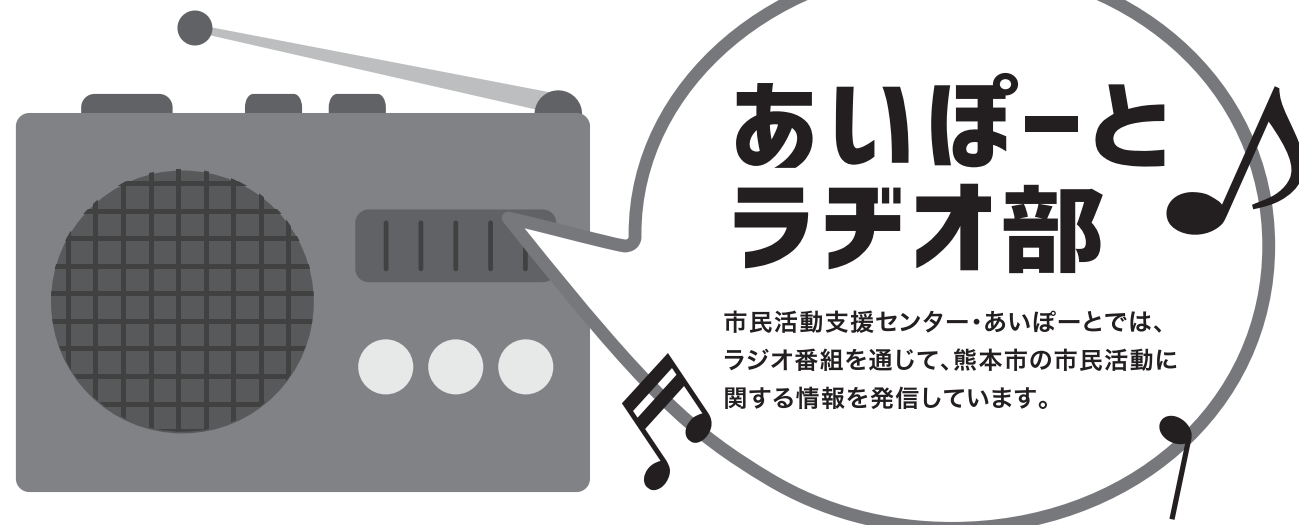
- ・子育て支援
- ・おーさぁ保育園COどおーも
- ・配食サービス
- ・喫茶食堂
- ・若者サポート
- ・自立支援・就労準備支援

●介護事業

- ・小規模多機能型居宅介護
- ・通所介護
- ・基準該当生活介護

スタッフのコメント

子どもから高齢者までが利用するおーさぁの取り組みを理解いただき、地域のいろんな人の思いやりに包まれて活動しています。新しい人との縁で新たな発見などがあり、なくてはならない人との縁に感謝しています。



あいぽーと ラジオ部

市民活動支援センター・あいぽーとでは、ラジオ番組を通じて、熊本市の市民活動に関する情報を発信しています。

あいりぽーと

第2金曜 14:00ごろ～

熊本県内で活動している団体をあいぽーとスタッフが取材・報告するコーナー。FM791のラジオ番組「校区のチカラ」の番組内で放送されます。市民活動に携わる人々の生の声を聴くチャンス！取材依頼のご連絡もお待ちしています！



様々な活動の現場から生の声を取材しています。

取材をきっかけに人との繋がりが活動の輪が広がることも



Let's go あいぽーと

毎週月曜 8:40ごろ～

あいぽーとで行われるイベント・相談会などの情報を、FM791のラジオ番組「Let's go あいぽーと」で発信しています。くまもと・わくわく基金の情報やボランティア情報、NPO法人に関する講座など、市民活動に携わる人には必聴！な内容が盛りだくさんです。「番組を聴きました！」と、あいぽーとに足を運んでくれる方もいらっしゃいますよ！



番組パーソナリティ
國津充花子さん

週のはじめ、月曜日に届けする『Let's go あいぽーと』！その週にあいぽーとで行われる様々な活動について、曜日ごとに紹介しています。どなたでも楽しく、気軽に参加頂ける活動がたくさんありますよ！ぜひぜひ番組を聴いて、あいぽーとまでお出かけくださいね♪

ラジオ放送 in あいぽーと文化祭

年に1度開催する「あいぽーと文化祭」では、あいぽーとの中にラジオ局が出現！？文化祭会場の様子をあいぽーとから生中継するほか、各団体の日頃の活動を市民の皆さんに知ってもらうために、参加者を巻き込んだインタビューも実施。当日の雰囲気を実感にお伝えします！ラジオを聴いて来館する方も沢山いるんですよ！！

1日限りの特設放送局！会場の盛り上がりを伝えます。



活動についてインタビュー！ドキドキ…

特定非営利活動法人
武田流流鏑馬保存会
(熊本県重要無形文化財)

伝統文化の後継者の育成と
振興を目的とする特定非営利活動法人。
助成を受けた「やぶさめ少年塾」では、
稽古や講義を通して
子どもたちの健全育成を担う

<http://yabusame.main.jp/>
武田流 流鏑馬 検索

どんな事業？

平成26年度助成『やぶさめ少年塾』
一般公募した少年・少女
(小学4年生～中学2年生)を対象に
「やぶさめ少年塾」を実施。
塾生16人に対し、武田流流鏑馬の歴史、
日常生活での作法・礼法、
弓道の基本、乗馬体験、
木馬を使った騎射など、
年間で計14回の稽古を
通じて指導を行う。

理事長 竹原 浩太さん

竹原家には
「流鏑馬を生業としてはならない」
という掟が存在するそうです。
そのため、「伝統を引き継ぐ宗家嫡男」と
「社員」の二つの顔をもつ竹原さん。
落ち着いた雰囲気からも、
その責任感と使命感が
ひひしと伝わってきます。

くまもと・わくわく基金 その後の話

くまもと・わくわく基金の助成を受けた団体が、その後どのような発展を見せたのかを追跡するこのコーナー。今回取材する団体は、平成26年度に「やぶさめ少年塾」の事業で助成を受けた「武田流流鏑馬保存会」。くまもと・わくわく基金助成による変化は？ 当時の生徒たちは今？ 気になる「その後」の話を、理事長の竹原さんにインタビューしました。



Q やぶさめ少年塾とは？

(原則) 小学校5年生から中学2年生までの男女を対象に、1年単位で稽古や講義を行います。今年度卒業する11期生を含めると、今まで総勢110名を超える生徒が受講してくれました。卒業生のうち2人は、なんと保存会の正式な会員になって今も活動しています。

Q くまもと・わくわく基金との 出会いは？

第4号の「あいず」で取材を受けた時に、基金のことを教えて頂き、お誘いを受けたのがきっかけです。少しでも補助がでるのなら…との想いで応募しました。くまもと・わくわく基金は各分野ごとに分かれて助成をしていたのですが、『伝統文化』の分

野で応募する団体は少なかったようで(笑)、滑り込みで申請してなんとか通りました。「やぶさめ少年塾」という子どもたちのための事業という主旨に賛同して頂けたようです。

基金の助成を受けた当時の塾生は8期生にあたります。助成金は、広報の費用や教材、弓矢の道具に充てたりしました。また、塾生の動画DVDも作成しました。事業のPRに使ったり、修了の記念品にすることができて、とても喜んでもらいました。体験を機会に弓道部に入ったり、馬術部に入った子もいます。また会員として戻ってきたいと言ってくれている子どももいるんです。

Q 助成を受けてからの変化は？

まずはPR効果。わくわく基金と出会うことで、報告会で報告させていただいたり、広報誌に載せていただいたりと、「武田流」の名前が出る機会が多く持てました。とてもいいPRになりましたね。少年塾も、保存会の会員も順調に人が集まってきました。その人たちを後継者として見極めていくという課題は残りますが、それでも、後継者不足のところに人が集まってきたというのは、やはり大きな収穫です。

Q 他にはどんな影響が？

基金の助成を受けることで、市民からの信用性が高まったのも確かですね。この点は、8年前にNPO法人化したことの影響も大きかったように思えます。全国で2つしかない流鏑馬の正統流派である武田流を正しく残したい、という思いからNPO法人化したのですが、安心感や信用性の面で大きな効果があつたように感じます。保存会の会員も40名以上に増え、女性の会員も増えました。様々な職種の会員が、年齢も幅広く在籍しているので、運営の上で



Q 活動の苦労や将来への想いは？

も助かっています。少年塾についても、親御さんが安心して預けられるという意味で、くまもと・わくわく基金の名前やNPO法人は大きな冠だと思います。

「絶やしてはいけない」というプレッシャーですね。先にも述べたとおり、会員も少年塾も順調に人は集まってきました。ただその人たちが長くやってくれるかどうか、本当に本物になれるか、そこは見極めていかなければなりません。お金儲けでもない、趣味でもない。趣味でもいいんですけど、興味本位だけでは続きません。「武田流」の精神にあった人かどうか、そこを見極めるのが私の役目ですね。

さまざまな影響も含め、わくわく基金はいい基金でした。今後、新しい取り組みをする時には、ぜひもう一度申請してみたいと思います。

終始落ち着いた雰囲気でお話し頂いた竹原さん。武田流の伝統に対する想いと責任感が伝わってきます。より厳しい要件・基準を満たした団体だけが認定を受けられる「認定NPO法人」も目指して活動されています。8期生が助成を受けた「やぶさめ少年塾」も、まもなく11期生が卒業。続く12期生へと、伝統と想いが受け継がれてゆきます。



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金 制度のしくみと利用方法

熊本市市民公益活動支援基金「くまもと・わくわく基金」とは？
市民公益活動支援基金「くまもと・わくわく基金」は、市民の皆様や事業者の方々の「社会に貢献したい」という「想い」を寄附金としていただき、活動団体への助成という形で市民公益活動を応援する制度です。
この基金の特徴は、皆様からいただいた寄附金が
団体の事業費の一部となる → 助成を受けた団体の活動が市民の皆様に還元される
というところにあります。事業費の助成のみではなく、事業を円滑にするためのアドバイスや情報発信などのサポートも行っています。

助成について

市民公益活動への助成は、基金運営委員会で審査して決定します。
また、助成団体の運営に関する相談やホームページ等による紹介などのサポートも行います。

助成対象となる事業・団体

●対象となる事業
保健・医療・福祉などの様々な分野で行われる市民公益活動
●対象となる団体 熊本市内に事務所または活動拠点がある次の団体・NPO法人
・ボランティア団体等の任意団体
・自治会、校区自治協議会等の地域団体
・その他上記団体で構成された複合団体

助成申請について

毎年11～12月頃：翌年度事業の助成申請を受付
翌年2月頃：基金運営委員会によって審査
翌年4月頃：助成交付・不交付の決定
随時受付中：基金団体登録（助成申請を希望する団体は、事前に基金団体登録を行う必要があります）

「くまもと・わくわく基金」への寄附が
ふるさと納税サイトで申し込みできます！

熊本市では、平成29年12月1日より、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」での寄附受付を開始しました。ふるさと納税の一種である「くまもと・わくわく基金」への寄附も申し込みが可能です。

ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」
<https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100>

「ふるさとチョイス」での申し込みをする場合、寄附方法として、クレジットカード決済（※）、銀行振込、郵便振替、現金書留を選択することができ、申し込みから支払いまでの手続きをいつでも簡単に行うことができます。
※使用できるクレジットカードは、JCB、VISA、MasterCard、AmericanExpress、ダイナースが対象となり、5,000円以上の寄附から使用できます。

～ふるさと納税「感謝の品」～

熊本市では、一定額（10,000円）以上の寄附をいただいた方に対して、寄附金額に応じて「体験型」の特典を含めた「感謝の品」を進呈しています。「くまもと・わくわく基金」での寄附も、ふるさと納税として申し込みが可能です。

熊本市内にお住まいの方…「体験型」の感謝の品のみが対象となります。
熊本市外にお住まいの方…「体験型」と「伝統工芸品・ロアッソグッズ」のいずれかからお選びいただけます。

一覧は下記QRより

ロアッソ応援グッズ

伝統工芸品（肥後でまり、肥後象がん等）

熊本市電「COCORO」体験運転

お問い合わせ

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと（ウェルパルクまもと1階） TEL：096-366-0168
助成や寄附に関するお問い合わせは、お気軽に「あいぽーと」までご連絡ください。

熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金

「くまもと・わくわく基金」へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。
熊本市民の皆さま、法人・団体等の皆さまからのご寄附は、平成30年1月10日現在、15,730,043円となっております。ご協力に厚く御礼申し上げます。
今号では、平成29年7月11日から平成30年1月10日の間にご寄附をいただきました皆さまへ感謝の意を込め、以下にご芳名を掲載させていただきます。皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 【一般寄附】
- 株式会社 熊本市リサイクル事業センター 様 8,332円
 - 株式会社 サンワイテック 様 300,000円
 - 株式会社 パースト24 様 72,453円
 - 久門 和宏 様 50,000円
 - 宮 昌隆 様 30,000円
 - 大司 恭史 様 2,000円

- 《ご要望により寄附額非公開の方》
- | | | |
|-----------------------------|---------------------|-------------------|
| ●E-clean 様 | ●NPO法人 スポレク・エイト 様 | ●赤松 亜弥 様 |
| ●赤峰 律子 様 | ●飯崎 智也 様 | ●伊形 治美 様 |
| ●磯畑 周作 様 | ●井上 辰雄 様 | ●岩元 瑞紀 様 |
| ●上村 鈴治 様 | ●浦田 憲治 様 | ●太田 康文 様 |
| ●太田黒 涼 様 | ●岡村 大輔 様 | ●小川 延宏 様 |
| ●加治 宏志 様 | ●株式会社 お菓子の香梅 様 | ●株式会社 熊本シティエフエム 様 |
| ●株式会社 宮食 様 | ●清田 圭一 様 | ●熊本新明産業 株式会社 様 |
| ●桑野 恭輔 様 | ●桑原 芳文 様 | ●小島 秀樹 様 |
| ●合同会社八十八番屋本店 代表社員 上野 勝博 様 | | ●斉藤 勝利 様 |
| ●白石 順也 様 | ●白石 直子 様 | ●杉本 幸生 様 |
| ●竹田 逸夫 様 | ●竹田 靖宏 様 | ●土井 和子 様 |
| ●徳山 理恵 様 | ●中尾 紗綾 様 | ●長生 修 様 |
| ●中村 多香子 様 | ●鍋島 綾 様 | ●南條 熱士 様 |
| ●野口 昭二 様 | ●野口 信太郎 様 | ●濱田 孝子 様 |
| ●原田 宣博 様 | ●原田 靖士 様 | ●東 広大 様 |
| ●平田 智史 様 | ●深浦 裕恵 様 | ●古庄 美奈子 様 |
| ●堀 史 様 | ●本田 信之 様 | ●益岡 宏規 様 |
| ●松江 慎太郎 様 | ●水野 直樹 様 | ●安口 征司 様 |
| ●山室 尚昭 様 | ●有限会社 オー・エス収集センター 様 | ●有限会社 石翔 様 |
| ●熊本城マラソン熊本応援チャリティランナー623名 様 | | |

※その他、掲載を希望されなかった方 14名

寄附をお考えの方

「くまもと・わくわく基金」への寄附は、地域活動推進課窓口へ直接寄附金をお持ちいただく方法と、事前に必要事項を記入した「寄附申出書」を地域活動推進課へ送っていただき、その後返送された「納付書」をもって金融機関にて寄附金をご入金いただく方法があります。他にも熊本市役所庁舎1階に募金箱を設置しております。寄附額に制限はありませんが、2,000円以上ですと、地方公共団体に対する寄附として「ふるさと納税」扱いとなり、税制上の優遇措置を受けることができます。寄附のお申し込みやお問い合わせは、お気軽にあいぽーとまでご連絡ください。 ※インターネットでの申込が可能になりました。（詳細は次ページ）

あいぽーと TEL：096-366-0168
ホームページ http://www.kumamoto-aiport.com/kumamoto_wakuwaku/



アクティブNPO

今回紹介するアクティブなNPOは、難聴者等の社会参加と福祉の向上に向けて活動する「NPO法人 熊本県難聴者中途失聴者協会」です。30年以上も活動が続けてきた同団体は、2017年よりNPO法人としての活動をスタート。「聞こえ」が難しい当事者同士が話し合い・学び合う場として、また、難聴者と健聴者を繋ぐ橋として、精力的に活動を行っています。設立当時から続く想いや、NPO法人化による変化についてインタビューしました。



2017年、NPO法人へ

NPO法人化したのは、設立して30年以上が経った2017年のことでした。以前から法人化したいとの思いはあり、会員のなかから上がった「NPO法人にしましょうよ!!」との声も受けて、法人格取得に向けて準備を進めていました。その矢先に発生した熊本地震も、法人設立への大きなバネになりました。避難所へ支援に行った際に、聞こえない・聞こえにくい人たちに對する支援が遅れていて、NPO法人として活動する必要がある、と改めて感じたのです。

法人化した影響や変化

話し合いの内容がより深まりました。難聴者同士では視野が一方に集中しがち



ですが、会員の中に健聴者の方もいますので、多方面から客観的な意見を言ってもらえることは大きな意味があります。講演会や学習会などの活動に外部から参加してくださる方の存在にもとても嬉しく、会員の難聴者にとって刺激になります。立場や環境による捉え方の違いを学ぶことができ、それまで気付かなかったことにも気づかされます。

また、NPO法人になってから、勉強する場を以前より多く設けることができるようになりました。自分たちの問題点や取り組むべき課題について話し合う場もたくさん設け、SNSを利用した意見交換を行うなど、少しずつではありますが皆の意識が高まってきていると感じています。



難聴者も健聴者も

みんなできり合う場所

難聴者・中途失聴者のコミュニケーション方法は多種多様！

ろう者の方は手話が主なコミュニケーションの手段となりますが、私たち難聴者・中途失聴者のコミュニケーションは多種多様です。「聞こえ」には個人差があり、聞こえなくなった時期も、幼い頃からの方や成人してからの方など人それぞれです。そのため、手話あり、要約筆記（文字による通訳）あり、筆談あり、読唇ありと、それぞれの状況でコミュニケーションの方法が異なります。

広島で出会った画期的な会話ツール

団体設立のきっかけとなったのは、35年前に広島で開催された、中国・四国・九州の聴覚障害者の集まりでした。当時の熊本では、難聴者・中途失聴者同士の話し合いはホワイトボードへ各々が書き込みながらの筆談がメインでしたが、その会場では参加者それぞれの意見が専用の映写機で、文字

これからの目標は

支援する側が主になって活動している団体が多い中、当事者主体の団体であることが私たちの強みです。難聴であることを自覚されないまま過ごされている方も含め、難聴や中途失聴で悩んでいる方に、どのようにすれば困りごとが減るのか、当事者同士で共に考え、語り合っていける場所でありたいと思います。

また、普段の日常生活でも他人を理解し受容するということは、なかなか難しいのですが、それは難聴者にあっても同じです。自分のことを自分で説明できる力を持つことで「社会は不安なことだらけではない」と勇気をもって社会参加していくことを伝えていける団体として、さらに多くの方に情報提供を行って行きたいと思っています。

聞こえにくい方とのコミュニケーションのポイント



- ①耳元で話すのではなく、正面からゆっくり・はっきりと話す
- ②音の似ている言葉の聞き分けが難しいので、ヒントになるものを指し示しながら話したり、数字は指で表したりする
- ③唇の動きがヒントになるので、マスクははずす
- ④伝わりにくいときは書いて伝える方法もある（筆談）

取材後記



「優しいことはつよいのよ」。宮城まり子さん（ねむの木学園）の言葉をふと思い出しました。NPO法人熊本県難聴者中途失聴者協会のみなさんは、いつも温かい笑顔と、穏やかな優しさで溢れています。聞こえが難しくなり、音声による情報やコミュニケーションのバリアによって、「人間関係への参加」が制限され、「孤独」やり場

のない悲しみを抱えた経験から、優しさと強さを兼ね備えた会員の皆さん。当事者団体が主体となって活動することは、「他者の回復に貢献し社会を変革する力を持っている」と気付かれます。「私たちの手助けを必要としている人達」は、同時に「私たちが必要としている人達」であると感じていただきました。（T・N）

としてスクリーンに映し出されていました。それを見ながら会議をしたり、講義の内容を伝えたりしているのを見て感激し、「この方法を熊本へ持ち帰って広めたい!」という思いから、1985年に任意団体として活動をスタートしました。現在では、主に要約筆記者や手話通訳者等の情報保障(※)を得ながら活動しています。

※情報保障

身体的なハンディキャップにより情報を収集することができない者に対し、代替手段を用いて情報を提供し、人間の「知る権利」を保障すること。特に聴覚障害者は、音声によって提供される情報や会話を理解できないため、日常的に情報から疎外されているといえる。そのため、一般的に「情報保障」とは、聴覚障害者に対するコミュニケーション支援を指して用いられる。

あいぽーとの3つの事業

ボランティア関係事業

■あいぽーとボランティアDAY

実施日：毎月5日、15日、25日

5日：10:00～11:00 15日：13:30～14:30

25日：19:00～20:00

ボランティアに関する心構えをはじめ、「初めての方でも安心して参加できる」「仕事帰りに参加ができる」「学生が参加できる」「親子で参加できる」「短時間(3時間以内)で参加できる」など、各種のニーズに応じたボランティア活動を紹介しています。

■Let's go ボランティア(平成30年度よりスタート)

奇数月(5月・7月・9月・11月・1月・3月)

実際にあいぽーとスタッフと一緒にボランティア活動体験をします。

■あいぽーと文化祭(毎年1回実施)

市民公益活動を行う団体がステージ披露、体験ブース、パネル

展示など様々な方法で日頃の活動を発表します。1日に様々な分野の活動に触れて、知ることができるチャンス！

■ボランティア活動の提供

★折々ボランティア

実施日：毎月月末の平日の午前中

毎月発行している「あいぽーと通信」発送作業のお手伝いボランティア。一緒に「あいぽーと通信」を折り折りしましょう☆

★街なか清掃

実施日：毎年「火の国まつり おてもやん総おどり」の翌日

会場となる水道町交差点から辛島町電停一帯周辺の清掃活動を行います。どなたでも気軽にご参加を！

■ボランティア活動者向け講習会

実施日：随時

AED講習会など、ボランティア活動に役立つ知識や技術の講習を実施します。

NPO法人関係事業

■NPO法人設立説明会(年4回)

基礎・入門編

あいぽーと内にてNPOやNPO法人に関する基礎知識を学ぶ入門編の説明会を行っています。

■NPO法人会計セミナー

実施予定日：平成30年 9月予定

平成31年 2月予定

NPO法人が毎年提出しなければならない事業報告書等の作成について、丁寧に説明いたします。

■NPO法人専門相談会の開催

会計・税務・労務など、各専門分野に関する相談会を無料で実施します。

○会計・税務の相談会(3月、5月は除く)

実施日時：毎月第3火曜日 13:30～16:00 1回30分程度

申込み締切日 毎月第2水曜日

○労務管理の相談会

実施日時：毎月第3水曜日 13:30～16:00

申込み締切日 毎月第2金曜日

◆出前講座

設立をお考えの団体の所へ、ご要望に応じNPO法人に関する出前講座を承ります。(3名以上から)

◆NPO法人はじめの一歩セミナー

NPO法人設立1年以内の法人や、新しく役員になった方を対象に、設立して困っている事、運営についての課題解決へ取り組むためのアドバイス、体験等をご紹介します。

◆NPO法人窓口相談【予約優先】

相談時間：10:00～19:00(第2木曜日・年末年始除く)

事前にお電話でのご予約をお願いします。

くまもと・わくわく基金関係事業

あいぽーとではくまもと・わくわく基金(熊本市市民公益活動支援基金)に関する業務を行っています。

1 基金登録団体に関する業務(随時)

登録団体を募集し、団体登録に係る問い合わせの対応をします。団体登録申請書類の作成支援及び市への取次ぎを行います。

2 基金の助成説明会に関する業務(11月～12月頃)

助成事業募集の説明会を行い、問い合わせに対応します。申請書類の作成支援、記載事項の確認及び市への取次ぎを行います。

3 助成団体に対する支援業務

交付決定した助成団体へ説明会を行い、その団体への助言、相

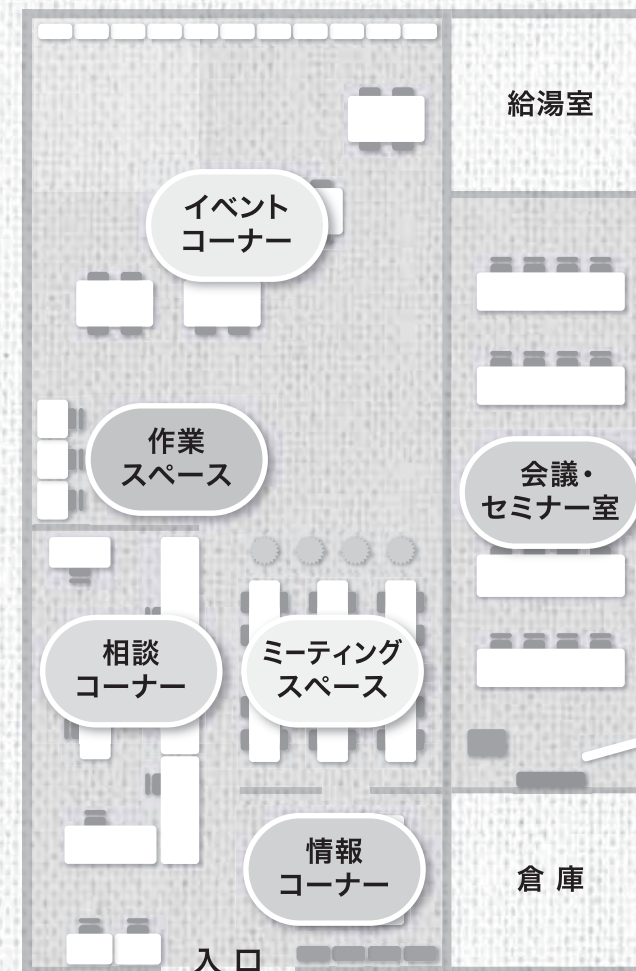
談対応、広報などの支援を行います。また、実績報告書の作成支援、記載事項の確認及び市への取次ぎを行います。

4 助成事業報告会に関する業務

助成事業報告会を開催し、寄附者や市民の皆様への報告を支援します。

5 くまもと・わくわく基金への寄附に関する業務

寄附募集に係る広報及び問い合わせに対応し、市民や企業の「想い」を「寄附」というかたちでつなぐお手伝いをします。



NPOのプラットフォーム

あいぽーとガイド

熊本市の市民活動の拠点「市民活動支援センター・あいぽーと」。その全容と活動内容をご紹介します。あいぽーとの3つ事業の予定などもチェック！

利用上の注意

- センターでの酒気帯びでの利用やセンター内での食事飲酒はできません。(飲み物程度であればOK)
- ミーティングスペースを利用される際は、「利用者カード」のご記入をお願いします。
- 学習スペースとしての利用はできません。
- 貴重品等は、各自で責任を持って管理してください。
- イベントコーナー、会議・セミナー室の利用は予約制となっております。事前に団体登録が必要です。

情報コーナー



ボランティア、助成金、NPO法人、イベント等の情報を掲示しています。

相談コーナー



ボランティア、NPO法人、くまもと・わくわく基金等の相談を受け付けています。

ミーティングスペース



少人数でのミーティングや交流の場としてご利用ください。

作業スペース

印刷機、コピー機、パソコンがあります。パソコンは市民活動に関する情報閲覧にご利用ください。

■コピー機
白黒 1枚 10円
カラー 1枚 50円

■印刷機
製版 1枚 100円
印刷 1枚 1円
※印刷用紙はご持参ください

会議・セミナー室



会議、セミナーにご利用ください。プロジェクター、オーディオ、ビデオの使用も可能です。

イベントコーナー



イベントや団体の活動にご利用ください。

あなたとの
出会いが
わたしの宝物
(中央区
ドラミ)

今日会った
すべての人に
ありがとう
(中央区
スネ夫)

最大の
私の出会い
両親かな
(東区
御朱印)

囲碁仲間
負けても笑顔
さすがし
(近田綾子)

続ければ
きっとあるよね
素敵な出会い
(北区
スター書店)

めくるめく
人との出会い
風車
(中央区
著我の花)

あいぽーと
愛を感じる
出会いあり
(東区
みつえ)

お手合わせ
囲碁の道にも
イバラあり
(中央区
尤雪)

初孫と
出会い活力
よみがえる
(中央区
フィッシャーマン)

また出会える
日を約しをり
春近し
(東区
宮中不二子)

知らぬキミ
明日は私の
想い人
(中央区
ラブリーちゃん)

さよならも
新たな出会いが
ほらそこに
(中央区
のび太)

笑劇は
孫との出会い
この一年
(中央区
ノグさん)

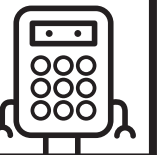
暮に会い
いつか主人を
負かしたい
(中央区
上田和代)

あいず川柳道場

今回のお題「出会い」
 春は出会いと別れの季節ですね。
 今回は皆さんの「出会い」への思いを川柳に込めていただきました

次号のお題は、6月にあいぽーと窓口にて発表致します。詳しくはあいぽーとまで。

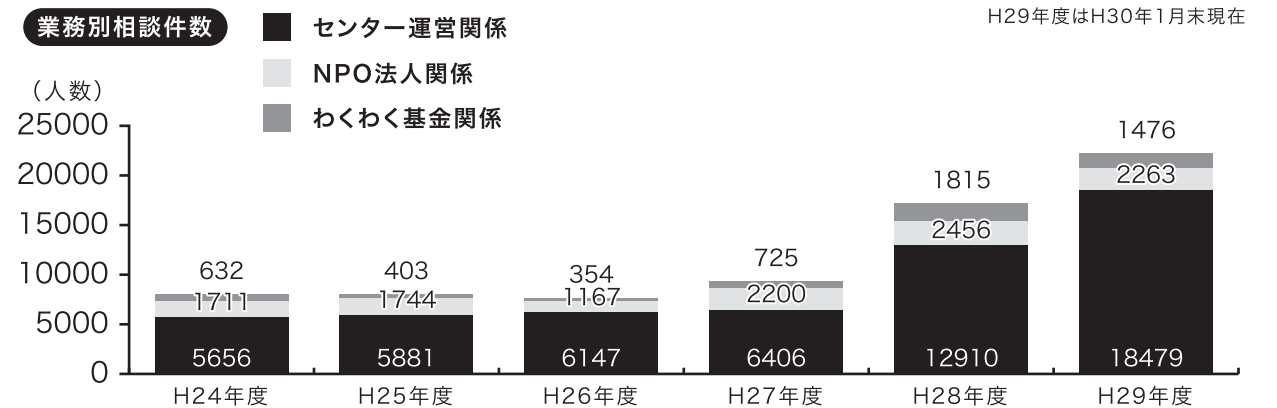
数字で見る“あいぽーと”



今回は、年度別のあいぽーとの利用状況と「くまもと・わくわく基金」の寄附額、助成額の状況を数字でみてみました。

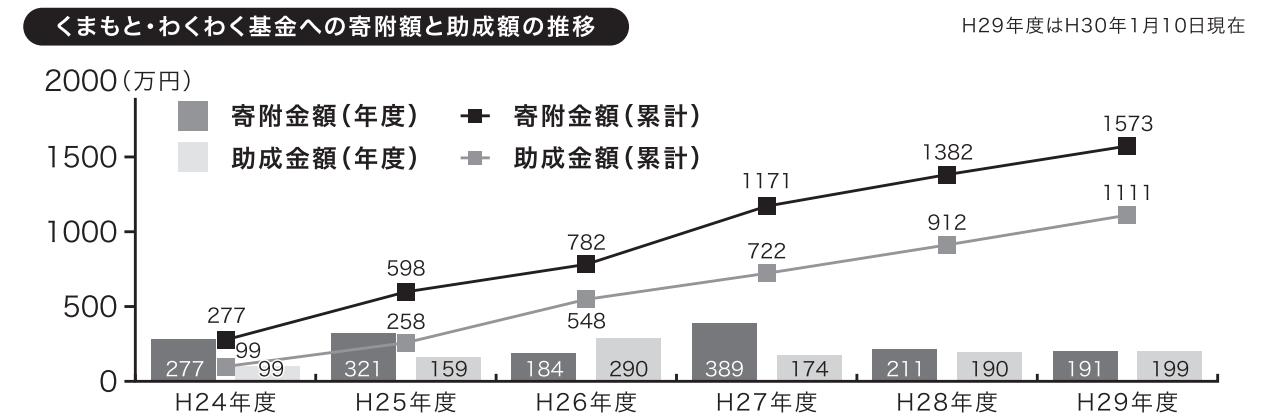
【あいぽーとの業務別相談件数】

あいぽーとの業務別相談件数については、窓口対応の充実や個人・団体に対しての支援対応などにより、各業務とも堅調に増加しています。また、平成28年度は、熊本地震により場の提供を停止し窓口業務中心であったものの、前年より増加する結果となりました。



【くまもと・わくわく基金の寄附額・助成額の推移】

近年は年間200万円を超える寄附額に対し200万円弱の助成が行われています。また、申請件数では、スタートアップ助成でほぼ全件、ステップアップ助成で7割弱の件数が助成決定となっています。



年度別助成申請及び助成決定件数

